



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内373)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
所報 No. 570  
発行責任者 所長 河合 広映  
発行日 令和5年 7月 15日  
題字 山田 恭正 教育長



『ふじ組プールを  
作るう!』  
目的の実現に向けて  
友達と力を合わせる  
協同性の育ち

撮影 濃南こども園  
亀井敬恵 先生

## はねつるべ

土岐市教育研究所長 河合 広映

孔子の弟子である子貢が南方の楚に旅行して、晋に帰る途中、漢水の南を通りかかった。

見るとひとりの老人が野菜畑を耕作しようとしている。地下水を掘って井戸の中に入り、瓶を抱えて外に出てきては水をやってた。骨が折れて苦労の大きい割には仕事ははかどらないようだ。

見るにみかねて子貢は声をかけた。

「こんな仕掛け道具をご存じですか。一日に百もの畝に水をまくことができます。労力が大変少なく、しかも効果はたくさん現れます。ご老人、ひとつ使ってみる気はありますか。」

畑仕事をしていた老人は、子貢を見上げながら言った。「どんな仕掛けだね」。子貢は、はねつるべの説明をしました。「木を削って仕掛けを造り、後ろを重く、前を軽くします。これで水を汲めばものを引き出すように汲めて、水があふれだすように素早くまくことができます。その名をはねつるべといいます。」

これを聞いた老人は顔色を変え、軽べつ笑顔を浮かべていった。

「私の先生からこんなことを聞いています。便利な道具があると、必ずずるいことが生まれる。ずるいことが生まれると、必ずずるい心が生まれる。ずるい心が胸の中にあると、純白の美德が失われる。純白の美德が失われると、精神が乱れる。精神が乱れた人間は、道という支えがなくなる。はねつるべを、私は知らないわけではありません。恥ずかしいから使わないのです。」

子貢は恥ずかしくなって顔を赤らめ、頭を垂れたまま何も答えられなかった。

※「はねつるべ」柱で支えた横木の一端を石に付け、他端に取り付けた釣瓶を石の重みで跳ね上げ、井戸水を汲み上げる機械

GIGAスクール構想により、各学校にはICT機器が充実し、児童生徒たちの日常生活や授業にも積極的に使われるようになったのは、ほんの数年前です。この数年間で、もはやタブレットは児童生徒にとって文房具となりつつあり、授業で使ったり、家に持ち帰って使ったりすることは当たり前前の光景です。これからは機器や教材は日進月歩で、より効果的・効率的な活用が求められるようになってくることは容易に想像がつきます。

しかし、この老人の言動も理解ができます。老人ははねつるべの存在も知っており、知ったうえで、使うことをしませんでした。自分の意志で一線を引いたのです。きっと、生産性と利益だけを考えていたのなら、迷うことなく効率性の良いはねつるべを使っていたことだと思います。では、なぜ老人はここで一線を引いたのでしょうか。いろいろと想像することができます。例えば、老人は一度使ってしまうと、その便利さに「もっともっと」と欲が出てしまうことを自身で戒めた、とも考えることができます。「足ることを知る」ということです。また、こういう考え方もできます。「一つ一つその作物の特徴や成長に合わせて水をやり、その成長や変化に喜びを感じている」。

今の仕事楽しいのでしょうか。だから、老人は機械に頼るとその喜びを失ってしまうことをわかっていたのです。私たちはどうでしょうか。4月、子どもたちも職員も新たな気持ちをもってスタートを切りました。子どもたちの成長を喜ぶ。そこに軸足を置いた仕事が続けられているのでしょうか？授業の効率性、機器の便利さを求めすぎて、大切な何かを忘れていないのでしょうか？確かに便利なものはこれからもどんどん出てきます。しかし、教師として「効率的」だけで片づけられないこともあるはずで、老人の「一線」を自分の中のどこに引くか。今後の課題となってくるかもしれません。

---

---

# 教育委員になって

土岐市教育委員 加藤 幸代

---

---

「教育委員を受けてもらえますか？」

と、聞かれた時、教育委員という役職名すら私の範疇にはなく、『何の仕事なんだろう？』と、たいした覚悟もなく、好奇心から

「私にできるなら」

と、お返事したのを覚えています。

小学校と中学校に通う子どもがおり、もちろん教育にも興味があります。妻木保育園、妻木小学校で経験した PTA 活動もはじめは不安ばかり先に立ちましたが、終わってみれば、たくさんの子供たち、PTA の仲間、地域の方との交流を通じて、素晴らしい体験になりました。

そのような体験から、「やってみよう」と受けてしまったことをじわじわ後悔し始めたのは、市役所にうかがい、教育長さん、教育委員会の方々にお会いし、お話をさせていただいてからです。「私で役に立つのか？むしろ迷惑なのでは？」と思いつつ、任命していただいて、すぐに濃南小学校で開催された東濃西部教育研究委員会に参加させていただきました。この会議に参加した時、多治見市、瑞浪市の教育委員の方々と交流する中で、保護者ならではの意見や私が率直に思ったことを伝えていくことの大切さを教えていただきました。また、海津市で開催された研究総会でも、各市の教育委員の方々から助言をいただき、それぞれの市の課題、実績、努力など多くのことを学びました。

ところで、私には中学に通う娘と小学生の息子がいます。我が子たちは、学校で新しいことにチャレンジしているようです

我が子が通う中学校では、今年度から子ども同士の学び合いにチャレンジしているそうです。年度初めの頃は、母親として『お友達と喧嘩したら誰と学ぶ？もし仲間外れにされたら？』など心配事が多くありました。しかし、

「どうだった？」

と、我が子に聞くと、

「『みんなは、分かっているのかも』と思い、今までは質問しにくかったことも質問できるようになった」

などと、言ってくれました。新しいことにチャレンジし、乗り越えていく娘の姿をすごいなと思ってしまうました。

小学生の子どももチャレンジしています。係活動ももちろんですが、クラスに会社が作られ、活動しているそうです。仕事と意識することでとても楽しそうで、責任感も増したのではないかと思います。

うちの息子はイラスト会社の社長になりました。「仕事をとってこなくっちゃ」と言い、自ら絵でクラスに役立つことを見つけようとしています。お笑い会社もあり、コントもロイロノートで見せてもらいました。韻を踏んだり、言葉を工夫したりなど研究したんだろうなと感心しながら 笑わせてもらいました。

四月の学年懇談で子どもの主体性を伸ばしたいとおっしゃっていたのを思い出し、先生方も様々な工夫をし、チャレンジされていることを実感しました。また、教育委員の活動に参加させてもらうようになり、さらに先生方への感謝の気持ちが大きくなりました。

子どもたちはクラスでお互いの～いいとこみつけ～をしています。先生のいいところも見つけて知っていただくような機会があったらいいのになあとと思います。

最後に、教育委員の活動を通して成長し学ぶチャンスをいただいたと考え、私も子どもたちや先生方のようにチャレンジしていこうと思います。

# 『幼稚園教育から・・・学んだこと』

土岐市幼稚園・こども園長会 会長 知原 勝成

## 1 幼稚園教育において育みたい資質・能力

### (1) 知識及び技能の基礎

遊びや生活の中で「気付くこと」「分かること」「できること」などの様々な体験が知識及び技能の基礎になる。

例えば「泥んこ遊び」では、「こんなふうに流れていくんだ」という水の流れ方に気付き、友達と協力して水溜まりや水の道をつくることを楽しんでいる。鉄棒では「逆上がりができるようになった」という成功体験をしている。幼児期にはそうした体験が無数にある。

### (2) 思考力、判断力、表現力等の基礎

遊びの中で生まれた「自分たちがやりたいこと」に向けて、気付いたことやできるようになったことを生かしながら、考えたり、試したり、工夫したりする力を育てている。

例えば「石鹸遊び」ではどんな泡をつくりたいのかを考え、そのために石鹸の量や水の量を試したり、工夫したりしながら様々な泡をつくりだしている。

### (3) 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むかということである。

心情は喜怒哀楽や感性、感じる心、意欲は何かをやりたいと思う気持ち、そして態度は、やりたいことに粘り強く取り組むこと、友達と協力すること、挑戦していくことなどでそれらがつながって育っている。

特に上記の態度は、「社会的情動スキル」または「非認知能力」と呼ばれ、「4歳くらいからどんどん伸びはじめ、幼児期に大きく育まれる力であり、逆に大人になってから身に付けるのは難しい脳の働きである」とのことである。

(武藤 隆 (元文部科学省中央審議会初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会主査) 監修「幼稚園教育要領ハンドブック」から) 園の日々の遊びの中でも大切にされており、そうした力を育む姿が随所にみられる。

## 2 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」には、下記の姿が示された。

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

子どもの自発的な活動としての遊びを中心とした保育・教育を通して育っていき、さらに小学校入学以降も育ち続けることを目指している。

例えば、「道徳性・規範意識の芽生え」では、友達と様々な体験を重ねる中で、してよいこと悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら・・・とあり、まさに将来につながっていく姿である。

幼稚園教育は方向目標「育ってほしい」であるが、幼児期においても個に応じながら一つ一つ指導を積み重ねていくことの大切さを実感している。

余談ではあるが、今年度サツマイモの栽培を一人一袋(培養土)にしてみた。どの苗もよく育っており、子供たちも保護者の方と成長を見届けながら、収穫を楽しみにしている。畑の整備など、先生方の負担を軽減することもできた。





「今日が楽しく 明日が待ち遠しい」

土岐津っ子のために



土岐津小学校長  
三宅 裕一

### ◇はじめに

『一流選手になる人は、無意識にプラスな暗示をかけている』、これは、故野村克也氏（元プロ野球監督）が監督時代に言われた言葉のひとつです。私たちは仕事をするとき、たいていは自信と不安が交錯します。そういうときにこそ、自分を自信型に仕向けていくことが成功するための方法だということです。野村氏の多くの言葉の中には、学校現場（人材育成）においても役立つような言葉がいくつもあります。特に若手教員には、こういったわかりやすい簡単な言葉の方が、すっと入りやすい気がします。私の学校経営は、『ヒントを得たいなら、先人の教えに学べ』という言葉に従い、先輩校長やOBの方に積極的に聞いたり、様々な本を読んだりして、学校経営の貴重なヒントを得ようと努力してきました。

### ◇夢を持つ「土岐津っ子」に

「…（前略）…。だから、必ずプロ野球選手になると思います。そして、その球団は中日ドラゴンズか西武ライオンズです。ドラフト1位で契約金は1億円以上が目標です。僕が自信があるのは投手か打撃です。」これは、イチロー選手の小学校の卒業作文の一部です。彼は、このときすでに、1日どのくらい練習をしなければならぬかをしっかり決め、ずっと実行し続けたそうです。「5年生の時に準優勝、6年生の時はベスト4で負けて、すごく悔しい思いをしたので、次こそ優勝してやろうという気持ちで、家の中ではずっとボールとバットを持っていました。」「160キロを投げると言い始めた時、周りは無理だろうと思っていたみたいですけど、無理だと思われていることにチャレンジするほうが、自分はやる気が出るんです。」大谷選手は小さな時から、こういうことを考えながら努力を続け、「夢」や「志」に真剣に向き合ったことで、今、メジャーリーグで結果を出しています。

校長として子どもたちに話をする様々な場面で、『夢を持つ』ことをテーマに、野球選手やオリンピック選手などの言葉を引用してきました。子どもたちの目指すゴールは一つでも、進み方は一人一人違ってよいと思います。自分の目標に向かって、少しずつ歩み続けることが大事であることを繰り返し語ってきました。今年度も「夢を持つ」

「目標を持つ」ということを、繰り返し話していこうと思います。

### ◇『失敗したとしても・・・』

「今日の算数の授業で〇〇さんが…」、放課後の職員室では、先生方が子どもたちのことをよく話をしています。学級経営・授業づくり・生徒指導・・・、先生方は日々多くの実践を積み上げてきています。会話の中には、振り返ってみてうまくいかなかったと思える実践も出てきます。そんな時、私は先生たちに、「失敗してよかったね。」と声をかけることがあります。大切なのは、成功に浮かれるのではなく、失敗を見つめることだからです。故野村克也氏の言葉に『失敗と書いてせいちょう（成長）と読む』という言葉があります。「野村再生工場」といわれ、戦力外通告をされ、チャンスを生かせず自信を失いかけていた選手を見出し、見事に戦力に育てていった人ならではの言葉です。本人が気づけなかった長所や能力に目を向けさせ、それを引き出し、自信に変えていきました。確かに、人は失敗より成功からの方がはるかに多くのことを学びます。しかし、失敗の原因を分析し、次の成功につなげていこうとすれば、きっと素晴らしいものが生まれてくると思います。

### ◇多くの人の温かさに育まれ

ある朝、二人の大人が児童と一緒に登校してきたところに遭遇しました。地域の方と交通安全ボランティアの方でした。話を聞くと、母親と言いつ争いをしたまま家を出た児童が、途中で立ちすくんでしまっていたとのこと。心配をした二人が、いろいろな話をしながら学校まで連れてきてくださったそうです。最初は泣き止まなかった児童も、二人と会話をする中で、自分から家族や学校でのことを話し始め、気付けば学校まで来てしまったと笑顔で話されました。きっと声をかけてくださった二人が、普段から見慣れた方だったからこそ、児童も心を許して話すことができたのだろうと思います。別れ際に児童が少し照れながらお礼を言うと、二人から『どういたしまして。よく言えたね。』と笑顔で返したその光景が、とても微笑ましかったです。そんな素敵な環境（地域）の中で、子どもたちが健やかに育っていることに喜びを感じています。



## 土岐市 幼稚園、小・中学校

### 新規採用職員の紹介

※今年度、土岐市へ着任した新規採用者は小中学校 17 名、幼稚園 4 名です。大学を卒業して、初めて教師として歩み始めた先生、何年も経験を積み重ね採用された先生。今、どのような想いで教壇に立ってみえるのでしょうか。

#### ◆土岐津小学校 横山優葉



初めてのことが多く、わくわくしながら日々過ごしています。

これまでの3ヶ月の間に、子どもたちの成長をたくさん見つけてきました。近くで成長を感じられる仕事にやりがいを感じています。

私は、子どもたちをよく見ることを大切にしています。見つけた子どもたちのよい姿をクラスに広げたいと思っています。

#### ◆土岐津小学校 渡邊 隆就 先生



社会科の専門ですが、運動、生き物など様々なことに幅広く興味があります。

私自身、経験を通して力をつけたり、「楽しい」と思うことに出会ったりしてきました。子どもたちにも、様々な経験を通して楽しく、気持ちよく過ごして欲しいと思

ながら授業をしています。子どもたちが楽しく過ごす毎日を創っていきます。

#### ◆下石小学校 寒川 雅史 先生



どのような指導をしていけば、思いやりの心を育てていくことができるのか考えながら、子どもたちの前に立っています。自分の褒めや言葉がけの積み重ねで、仲間を手伝う姿や優しい言葉を使う姿が増えてくると、嬉しい気持ちになります。

毎日子どもたちや先輩の先生方との関わりの中で、積極的に学んでいきたいです。

#### ◆妻木小学校 沼田 帆乃香 先生



私は「毎日子どもたちと共に学び続けたい」という想いで、教壇に立っています。教師の魅力は、子どもたちと一緒に成長出来ることだと考えています。

授業の実践面はもちろん、人との関わり方や考え方など、子どもたちから学ぶことは沢山あります。素敵だと思ったことはすぐに伝え、真っ直ぐに子どもたちと向き合っていきます。

#### ◆妻木小学校 梅村 茜 先生



私は、子どもたちと共に成長していきたいという想いで教壇に立っています。小さな成長でも認め、たくさんの児童の「頑張って良かった」や「もっと頑張りたい」という想いを引き出せるような声かけをします。そして、児童が安心感をもてるような温かい学級を創れるように努めます。

#### ◆濃南小学校 久保田 智大 先生



現在、児童全員が予測困難な未来で活躍できるように、日々色々なことを考え、挑戦して欲しいという想いで教壇に立っています。そして、専門の社会科では、事象に対してなぜそうなるのか、これから先どうあるべきなのかを考える、主体的な学びができるような授業になるように努めています。

#### ◆駄知小学校 山路 奈菜子 先生



4月から駄知小学校に赴任し、駄知の伝統文化や自然に触れ合いながら、毎日楽しく過ごしています。色々な先生方からアドバイスをいただきながら、やる気に満ち溢れた子どもたちが、「わかった」

「楽しい」と思えるような学級作り・学校作りを目指して、日々努めていきたいと思っています。

◆駄知小学校 大竹 洋輔 先生



昨年大学を卒業し、今年度から教員になりました。私は子どもの前に立ったら、初任者でもベテランでも関係ないという思いで、堂々と教壇に立っています。多くの先生方からアドバイスを聞いたりと、「いいな」と思ったことはどんどん挑戦したりと、向上心を持って何事にも取り組んでいきたいと思います。

◆肥田小学校 加藤 大輝 先生



「うわあ、すごい。」クラスの子たちが、昆虫標本を見たときの反応です。どの子の目もキラキラと輝いていました。そんな子どものキラキラした輝く目を大切にしていかなければならないと思った瞬間でした。いつも笑顔で教壇に立ち、子どもたちと一緒に頑張っていきます。

◆肥田小学校 各務 詩月 先生



教員になって3ヶ月たちました。うまくいかないことばかりですが、児童の「できた!」「やった!」という喜びの声と成長に日々感動し、元気づけられている毎日です。「まずはやってみる」を大切に、児童と共に笑い、遊び、学び、成長していけるように全力で頑張っていきたいです!

◆泉小学校 横山 寿人 先生



期待と不安が混ざる中、4月より教員生活が始まりました。現在では、元気いっぱいな子どもたちと共に、楽しく生活しています。「できた、わかった」と思える子どもたちが一人でも増えることを目指し、子どもたちの実態を踏まえた授業づくりに力を尽くしていきたいです。

◆泉小学校 夏目 果歩 先生



泉小学校での新しい生活に不安と緊張もありますが、子どもたちから元気をもらったり、まわりの先生方に支えてもらったりしながら、日々教壇に立っています。子どもたちが互いのよさを認め合い、支え合い、安心して過ごすことができる学級を目指し、力を尽くしていきます。

◆泉西小学校 長江 葵衣 先生



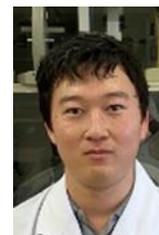
子どもたちには、「人として成長して欲しい」という想いで教壇に立っています。学習だけではなく、仲間とかかわる中で、相手の気持ちを考えて行動したり、しっかりとお礼が言えたりする人になって欲しいからです。先生方からアドバイスを頂きながら、粘り強く取り組んでいきたいと思ひます。

◆西陵中学校 春田 剛史 先生



今年度より西陵中学校に赴任し、2年生の理科を担当しています。一人でも多くの生徒に、「なんで・どうして」を通して「理科の考え方が面白い!」と思ってもらえるように、授業に取り組んでいます。不安なこともたくさんありますが、それを見せないようにもてる限りの力を出し切り日々努力しています。よろしくお願ひします。

◆西陵中学校 大橋 直和 先生



理科の先生として、生徒と身のまわりの現象の「なぜ」に向き合い一緒に考えながら日々を過ごしています。Ipadを用いてロイロノートや電子教科書、カメラ機能などICTを積極的に活用することにより、分かりやすい授業を意識して授業を行っています。いろいろな角度からアプローチできる理科の先生を目指していきます。

◆駄知中学校 古田 奈津季 先生



私は生徒の“やりたい”という思いを大切にして教壇に立っています。学級活動では生徒自身が考え行動する姿を大切にしています。理科の授業では、全ての生徒が見通しを持ち、主体的に学習に取り組めるように教材研究を行っています。これからも生徒の“やりたい”を実現するために研鑽を積んでいきます。

◆泉中学校 水野 祐介 先生



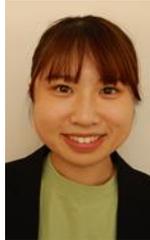
今年度から泉中学校に赴任し、生徒の笑顔と元気な声に囲まれながら毎日楽しく過ごすことができます。活気ある生徒の姿が私自身のエネルギーとなっています。今よりも成長し、新しいことができるようになったときの喜びは、子どもも大人も一緒だと思います。これからも生徒と一緒に純粋な気持ちで成長し続けていける教員でありたいです。

◆西部こども園 後藤 梨華 先生



私は、保育園・幼稚園の時にお世話になった担任の先生に憧れ、保育者を目指しました。その先生のように子どもの気持ちを受け止め一人ひとりの魅力を引き出せる保育者になれるよう、一つ一つの経験を大切に成長していきたいです。また、体を動かすことが好きなので運動遊びを通して、体を動かす楽しさを子どもたちにも伝えていきたいです。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

◆濃南こども園 梶浦 みるき 先生



4月から保育教諭として先輩の先生方や、子どもたちから日々沢山のことを学びながら過ごしています。今は未熟ではありますが、子ども達と同じ目線に立ち、一緒に考えたり、楽しんだりすることを大切にしています。「今日も楽しかった」と思ってもらえるような保育ができるよう、笑顔を心がけ、努力していきます。

◆泉こども園 竹田 羽那 先生



至らない点が多いですが、先輩の先生方から保育についてたくさん学ばせていただいたり、子どもの成長や元気なパワーをもらったりして、充実した日を過ごしています。今後も子ども一人一人の気持ちに寄り添い、共感することができる保育を目指して頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

◆泉こども園 西村 真衣 先生



子どもたちの思いを大切にしながら、園での生活が楽しいと思えるよう、日々関わっています。不安なことやできないこともまだまだ多くありますが、子どもたちの笑顔や、何事にも全力な姿をもっと引き出せるよう、私自身様々なことに全力で、向上心をもって、笑顔で取り組んでいきたいと思ひます。

市初任者研修

【研修Ⅰ】

「地域理解に関する研修」

- ・土岐市にある施設などで体験的な研修を行う。

【研修Ⅱ】

「今日的な教育課題、

校種間連携に関する研修」

- ・保育園及び幼稚園での保育士、幼稚教諭の体験的な研修を行う。

職場の仲間や子どもたちに支えられ、真摯に取り組まれている様子がわかります。今後も、子どもたちとの関わりや研修を通して力をつけていって下さい。



「心にひびく言葉」



「算数好き！楽しい！」

濃南中学校 教頭 石垣誠二

唐突に発せられた子どもの言葉に、改めて大切なことに気づかされた経験があります。

新型コロナで長期休業を余儀なくされた時、小学4年生を担当していました。学校再開後、算数の授業で、机に伏せて寝てばかりいる子がいました。授業についていくことができず、学びの悪循環に陥り、授業に集中できないのです。

そこで、算数の授業動画を作成し、夏休み明けから予習での活用を勧めました。すると、翌日から自信満々です。授業の最初から発表したくてたまりません。予習のおかげで学校での授業内容の定着が進み、学びの好循環が生まれてきました。そんなある日の休み時間、唐突に、彼が「算数好き！楽しい！」という言葉が発したのです。彼のこの言葉やそれまでの姿から、授業が「わかる」

「できる」ことが、子どもをこんなにも変えるのだということに気づかされました。

また、これまで、全員が横並びで授業のスタートを切ることがよいと考えてきましたが、授業内で十分な理解や定着ができない子をつくってしまったことに葛藤を覚えていました。しかし、予習の取り組みや子どもの変化から、どの子どもが授業のゴールに辿り着くことが最も大切だと考えるようになりました。

予習型授業の導入など、あの時の彼の言葉や変化をきっかけに、私にもまだまだやれること、変えられることがあるのではないかと考え取り組んでいます。子どもたちの言葉から「やりがい」をもらっています。

## 掲 示 板

令和5年度 東濃地区教育推進協議会教育実践研究奨励賞  
「実践記録、教材、教具の部」の募集について

### 【応募資格】

- ・東濃教育事務所管内の教職員「校長、教頭、教諭（講師、養護助教諭等を含む）、養護教諭、事務職員、栄養教諭・学校栄養職員」

### 【応募方法】

- ・前年度及び該当年度に作成または使用したもので、未発表のものを応募する。

### 【応募方法】

- ・小中学校の部 10月6日（金）までに ※小中共に、学校単位で「出品一覧」を教育研究所にメールで提出する。

### 【展示・審査】

- ・東教推研究発表会・実践交流会で展示、審査する。  
小中学校：11月7日（火）瑞浪市立瑞浪小学校

多くの先生の応募を、お待ちしております！

